

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092600081		
法人名	株式会社 ディーグリーン		
事業所名	グループホーム コスモス今元		
所在地	〒824-0018 福岡県行橋市大字今井3138-1		0930-26-1811
自己評価作成日	平成27年03月21日	評価結果確定日	平成27年05月01日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		093-582-0294
訪問調査日	平成27年04月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一番好きなご自宅での生活が困難になり、施設を利用する事となったご本人、家族の事情を十分理解し、把握することで、ご本人の生活、家族が豊かになれるよう職員一同がお手伝いしていきたい。各利用者の持病をスタッフ一同が十分把握して体調の管理、異変に気がつくよう情報を共有していくこと。体調管理の中で各利用者が自立が難しい、排泄、体温、水分補給の管理を徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今川河口付近の、海の幸が豊富な自然環境の中に、小規模多機能ホーム併設の1ユニット(定員9人)のグループホーム「コスモス今元」がある。地域に民家が少なく、行事やや活動はほとんどないが、隣接会社と緊急時の相互協力体制を構築し、ホームの祭りや運営推進会議に地域の方や、家族が参加し、地域交流の輪が広がっている。利用者の健康管理は、かかりつけ医と、協力医療機関を活用し、併設事業所の看護師と、介護職員が協力し、緊急時や、夜間の救急医療体制も整え、24時間安心して任せられる医療連携が整っている。また、管理者は職員と常に話し合い、利用者が、自宅で暮らすような環境に配慮し、生活リハビリを随所に取り上げ、身体機能維持と、利用者の自信回復に結びつけ、家族の喜びにも繋げているグループホーム「コスモス今元」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お一人お一人の充実した生活、尊重、互いの信頼関係、尊敬の意を基本理念にかかげ役職員一同、実践につとめ、毎週月曜日に復唱し再確認している。	ホームの理念を掲示し、毎週月曜日に唱和する事で、理念を確認している。職員は、利用者を人生の先輩として敬い、ホームでその方らしい落ち着いた生活を送ってもらえるように、理念を念頭に置いた介護サービスに日々取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当地区には祭り等のイベントはないが、公民館主催の講習会等に参加させていただいている。交流を図っている。毎年近所の方がご厚意でイテジク狩りを招待いただきました。	周りに民家が少ない環境の中で、隣接事業所と相互援助協力体制を築き、地域の花植え運動やコスメイトへ創作作品を出展しながら交流を図っている。また、幼稚園児やボランティアの受け入れ、公民館主催の講習会への参加等、地域に開かれたホームとなるよう努力している。地域の方からの果物の差し入れや、ホームの花火大会への参加等、地域住民との日常的な付き合いも始まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二カ月に一度の運営推進会議時に当施設で行った職員介護研修を会議時に説明、講習をしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表として、地区区長会長、区長、老人会、民生委員区会長、地区民生委員、支援センター2名、市役所2名と多くの参加を頂き、毎回、様々なご意見、ご指導のほか、勉強会を行っている。	運営推進会議は、利用者や家族代表、多くの地域代表、行政、包括の参加を得て2ヶ月毎に開催している。ホームの運営や取組み、活動状況等を報告し、参加者からの質問や要望、情報提供を受けて、毎回活発な会議となっている。また、会議の中で勉強会を行う等、会議がマンネリ化しないように中身の充実を図っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着サービスであり保険者である市役所とはオープンな形で現状、確認を行うようにしております。市役所にてグループホーム連絡会議、ケアマネ会議で事業所の取組みを伝えており、当施設の事は十分把握いただいていると思う。	行政とは、日頃から事業報告、相談等、密に連絡を取り、グループホーム協議会やケアマネ会議に参加し、行政と情報交換を行い連携を図っている。また、運営推進会議に、行政と地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修、ミーティングでも確認しており、今後も拘束のないケアを実践していきたいと思えます。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員研修の中で確認を行い、意識づけを行っている。職員は、スピーチロックやドラッグロックも含めた拘束が、利用者にも与える影響を理解し、具体的な禁止行為について検証し、利用者が安心して穏やかに過ごせるケアの実践に取り組んでいる。また、玄関の鍵は開錠し、併設事業所とも自由に行き来出来るよう配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修、ミーティングを通じ、職員全員、認識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で司法書士を講師として招き、後見制度の勉強会も開いた事もあり、現在、併設の小規模に後見制度を利用された方がおり最初から裁判所の認定まで関わることも出来ました。	併設事業所に制度の利用者がいるため、申請の手続きから関わる機会があり、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての理解を深めている。資料やパンフレットを用意し、制度が必要になった利用者や家族に対して、制度の内容を分かりやすく説明し、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行っております。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のなかで家族に意見、提案を出していただきそれを反映しています。又、玄関にご意見箱を設置しており、意見、苦情を受け付け易くしている。	毎月の支払い時には必ず家族と話をするように努めている。また、面会や行事参加の時にコミュニケーションを図り、利用者の状況について報告し、家族から意見や要望を聞き取っている。また、面会の少ない家族には、電話やメールで密に連絡し、要望を聞き取り、内容を運営や介護サービスに反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは個別ミーティングを行っており、意見を言いやすい環境をつくっています。職員リーダーの役割を置いており、職員の意見を反映しやすくしている。	職員会議は、ほぼ全職員参加で、毎月1回開催している。毎回会議の中で、テーマを決めて勉強会を行い、利用者への関わりと照らし合わせ具体的に学んでいる。他にも、職員は自らの気づきや意見を、朝のミーティングや申し送り等、日常のあらゆる機会に管理者、ケアマネ、リーダーに伝える事が出来ており、それぞれの意見が反映出来るよう取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験、資格、実績等、で職務手当、賞与に反映しており、公休希望も優遇しています。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用については、人柄重視で基本的にやさしい方と考えており、性別、年齢にとらわれずに雇用している。個々の能力を發揮できるよう配置転換も本人と話し合い行っている。	職員のロッカーや休憩室を整備し、1時間の休憩を交代で取り、希望休や勤務体制の希望に柔軟に対応し、職員一人ひとりが生き生きと働けるよう取り組んでいる。壁の飾りつけが得意な職員、料理、おやつ作りが得意な職員等、職員が特技を活かして働けるよう取り組んでいる。また、資格取得や外部研修受講を奨励し、職員が向上心を持って務める事が出来るよう配慮している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員には基本理念の通り、人生の先輩として、尊敬の意を持ち接すること指導している。	利用者一人ひとりのその人らしい暮らしを支える事や、利用者を人生の先輩として敬う事を理念に掲げ、週に1回理念を唱和する事で、利用者の人権を尊重する事の確認を行い、意識の統一を図り、日々の介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は交互に社外研修に参加し受講者がレポートを作成し他の職員も内容を理解出来る様、回覧しサービス向上に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行橋市主催のグループホーム連絡会議、ケアマネ会議、で他施設の職員と交流を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に御本人、家族とよく話し合い、ご本人が必要な援助、要望等を聞き出すよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等を話しやすいよう笑顔で聞き取りを行い家族の大変な苦労も共感、理解し、信頼関係をつくり相談しやすい関係をつくるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、家族の要望、必要な援助、他のサービスをケアプランし話し合いを行い適切な支援ができるよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は手伝いをお願いしお礼を言い、共に助け合う環境づくりに努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の不安な現状は連絡し家族と施設の意見を交えてご本人にも伝え解決するようにしている。又、通院はできるだけ家族にお願いし本人と家族の絆を大切にしたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家に帰りたい要望があれば気軽に家におつれしている。留守であるが家を見て納得されます。又面会の方が来られたら、お帰りの際は本人と玄関先までお見送りをし、また来てくださいとお願いしている。	契約時の面談で、利用者の友人、知人、生活歴等について聞き取り、記録して職員間で共有している。職員は、会話の中で話題にして記憶に繋げたり、会いに来てもらうようお願いする等、関係が途切れないように支援している。また、利用者がよく行っていた市場に同行したり、自宅に帰宅する事も定期的に行なっている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファでTV観覧時もひざ掛け毛布を3人ずつで分け合って使用するなど、非常に仲が良く、今の関係を継続できるよう、職員が努めていきたい。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了があっても経過フォローに努めたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や希望、意向を聞きできる限り利用者本意の生活ができるよう努め、意向が表出できない場合は入居者の視点に立って支援できるように取り組みたい。	利用者の入れ替わりがなく、職員も定着している事から、信頼関係が築かれ、利用者の思いや意向も丁寧に聞き取り、把握している。言葉での表出が難しい利用者に対しては、家族に相談したり、利用者の表情や態度から察する事で、思いに近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、主治医、に話を聞き、その人らしい生活ができるよう、健康状態等を含め、経過を把握するよう努める。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がご利用者の懸念要素は引継帳に記入し、現状を把握し朝礼や夜勤に引き継ぎを行い利用者の変化に対応するよう努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望、課題を把握し、家族、主治医、介護スタッフの意見を反映し、介護計画にあたっている。	日常生活の中で利用者の思いや意向を把握し、家族面会時に、意見や要望、心配事等を聞き取り、主治医、職員の意見を反映した介護計画の作成に努めている。アセスメント、ADL、支援方法をまとめ、全職員が共有し、ミーティングで評価、考察して、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に日常の様子等、記録し情報を共有している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人を家族と考え、お一人お一人の気持ちになり、お一人お一人を尊重し要望にも柔軟に対応に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自然に触れ合うため、ドライブレクで季節事の名所を訪れている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人、家族の要望に沿って医療機関を受診しています。かかりつけ医とは、小さいことから、相談できるような関係づくりに努めています。	利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を支援している。ホームの協力医療機関による往診を利用している方が4名で、他は、近所の医療機関を受診したり、入居前からのかかりつけ医の受診を、家族対応やホームでの対応で行っている。どの場合も、医療機関との連絡を密に取り、家族も含めた情報の共有に努め、安心出来る体制を整えている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	職場内に看護師があり、24時間、職員からの対処の相談に対応している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的に訪問し医師、看護師、ソーシャルワーカーと容体について話し合っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化について、契約時に同意書をいただいている。終末期の治療方針については、家族の意見を尊重したい。	契約時に、重度化や終末期において、ホームで出来る支援について利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の状態変化に合わせ、家族とその都度話し合い、主治医の意見も参考にして、利用者の重度化に合わせた支援体制を整えている。看取りについての外部研修に管理者と職員が数名参加する等、利用者、家族の希望に応えられるよう努力が始まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護の対応について個々に対応できるよう指導、勉強をうながしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	避難マニュアル、避難経路、を職場内に掲示して徹底している。隣の集配工場と相乗援助契約をしており災害時に協力いただけるようにしている。	併設事業所と合同の避難訓練を、9月と3月に実施し、消防署から水消火器を借りての初期消火や通報の訓練、避難誘導等を昼夜想定で行なっている。また、非常時に備えての飲料水、ビスケット、カレー等の非常食を日付を書いて保管している。隣接の集配工場と、非常時の相互協力関係を築き、安全対策にも取り組んでいる。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の意をもって接するよう徹底指導している。	職員は、利用者一人ひとりの理解に努め、嫌な事や困っている事、不安な気持ちを察し、利用者のプライド等に配慮し、優しい声かけや対応で利用者の気持ちに沿った支援に取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いに注意し、職員の守秘義務についても徹底している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思、意向は尊重するよう、職員一同努めており御本人の希望も遠慮なくやり取りされていると思います。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状態にあわせて、その日の暮らしを考え、ゆとりある日々が送れるよう心掛けています。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理容師をお願いしており、訪問時、本人の意思で散髪している。また2名の方は染髪を希望しており、美容室にお連れしている。洋服も同じものを好む傾向にあるが、変化あるよう職員がうながしている。家族の了解を得てご自分で洋服を選ぶ買物レクを行った。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべくお手伝いいただくようにしている。おいしいかどうかこえかけもおこなっている。	朝食はホームで作り、昼、夕食は配食サービスを利用しているが、「ラーメンが食べたい」という利用者の要望で、味噌ラーメンを作って食べる等、利用者の嗜好を活かした支援に取り組んでいる。また、利用者と一緒に好み焼きやたこ焼き、おやつ作り、干し柿作り等に挑戦したり、外食に出かける等、食事を楽しむ事が出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の病状に応じた食事量を医師からのアドバイスもいただき、コントロールしている。水分量については、起床時、毎食時、おやつ時(2回)風呂上り時、お薬時と一日を通じて管理(1125cc)を行っている。又、夜間トイレ時にお茶を飲む習慣の方にも対応している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。舌の状態、歯の状態、入れ歯の状態を考察している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	年々難しくなってくる自立排泄ですが、おむつ内での排泄による羞恥心ないよう、お一人お一人の排尿パターンを把握し、声掛け回数も増やし、トイレ誘導を行うよう心がけている。又、排泄表にて時間、回数をチェック管理している。	トイレで排泄する事を基本とし、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄時の不安や羞恥心に配慮しながらこまめに誘導を行い、出来るだけ失敗のない排泄の支援に取り組んでいる。細やかなケアにより、歩行困難な方が歩けるようになり、トイレでの自立排泄に至る等、取り組みが成果となって表れている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等、軽い運動を取り入れている。又、便秘がちなかたは家族と話し、ヨーグルト等を食している		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に一日置きに入浴いただいている。毎日、風呂を沸かしているので、利用者の状況に応じ、対応している。	入浴は一日おきを基本とし、利用者の希望や体調に配慮した支援に取り組んでいる。入浴拒否のある利用者に対しても無理強いせず、清拭を行う等、柔軟に対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分の意向を申される環境を作るよう心掛けており、利用者の体調、気分、習慣にあわせて、休息、安眠できるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師がおこなっており、利用者の体調を把握しながら、担当医にも相談している。又職員にも服薬に意味、症状の変化を観察するよう徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が一日一回でも楽しかったと思うことができるよう心掛けている。洗濯物をたたむときは自分で自分のものを探していただき、たたんでいただいている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	散歩レク、ドライブ、外食となるだけ、季節、体調と相談したうえ、外出を心掛けている。	天気の良い日は、外に出て日光浴をしながらおやつを食べたり、畑の手入れ、近所の散歩等、季節毎の景色を眺めながら外気に触れられるよう支援している。買い物や季節毎の花見、外食、ドライブにも積極的に出掛け、利用者がホームに閉じこもる事がないよう、気分転換を兼ねた外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方はご自分で所持していただいている。できない方は、預かり金として管理、サポートしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方はいつでもかけていただくよう、とりつぎしている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり物を置かず、落ち着ける空間を作っており、見学者からも誉めていただいている。	明るく広々とした交流スペースを中心として、併設事業所と左右に分かれた開放的な造りで、室内は清潔で、整理整頓が行き届き、音や匂い、採光にも気を配り、利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。利用者の笑顔の写真や季節感のある飾りで、楽しく居心地の良い共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓、ソファで利用者の方が、思い思いの利用をされている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、利用者の方、ご自由に使い慣れた物を持ち込んでいただいております、居心地良く過ごしていただいております。	利用者が自宅で慣れ親しんだ馴染みの家具や使い慣れた物、大切な物等を持ち込んでもらい、利用者が安心して暮らす事が出来るよう配慮している。また、清掃が行き届き、利用者が気持ちよく過ごせる居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	規定の手すり以外にも、手すりを配置している。又床には、転倒時を考慮し、5mmのコルクをしきつめており、歩行はクッションがきており、足、膝の負担が少ないよう、配慮している。		